



～夢の素材をつくる 花と絵と音楽と水のある学校～

国立二小だより

平成26年7月18日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

成長につながる評価

校長 小林 理人

今週の月曜日、全校朝会の講話の中で、「二小の自慢話」をしました。

国立第二小学校で育った子供たちには当たり前のことでも、他と比べると特徴的なこともあります。そして、それが、良いこと、価値のあることなら「自慢」になります。

私が「自慢」として紹介したのは、教室の廊下に掲示されている学習作品です。

廊下に掲示してある学習作品は教員の「できるようになってほしい」という気持ちと、子供の「できるようになりたい」という気持ちが重なり合って完成したものです。二小の子供たちの学習作品はとても丁寧で、どの作品からも一生懸命さが感じられます。そして、細かいことですが、鉛筆で下書きをし、ペンで仕上げた作品や、紙面全体のバランスを考えて文字の大きさや文の量などの工夫した作品など、子供たちや指導した教員のこだわりや工夫が感じられます。

また、教員の作品の掲示の仕方や扱いも丁寧で、子供たちに成就感や達成感をもたせたいという気持ちが伝わってきます。

わたしは、これまで学校現場を離れ、学校を支援する立場で学校を見せていただく機会が多くあったこともあり、様々な学校を訪問し、訪問をした学校で掲示物からたくさんのことを学ばせていただきました。

あらためて国立二小の廊下に提示された学習作品を見てみると、見応えのある作品であり、子供たちや教員の一生懸命さが伝わるものだと素直に感じます。

そして、この「自慢話」には続きがあります。「継続は力なり」、良いことや価値のあることは、それを続けることで力になります。それは、子供たちの学力であり、教員の指導力でもあります。これから始まる夏休みを、2学期に向けて、力を蓄え、良い準備をする期間とし、2学期にはこの「自慢話」の続きを子供たちにできるよう、指導の充実を図って参ります。

“Luck is what happens when preparation meets opportunity.” 良い準備が良い結果につながります。

終業式・・・評価を成長につなげる

終業式では、学校全体やそれぞれの学年ごとにごがんばったことや成長したことなどを肯定的に評価し、1学期の活動場面の写真を見せながら話をしました。子供たちにとって他者からの肯定的な評価は成長につながる大きなきっかけになると考えているからです。

また、1学期に病気やけが等の理由で欠席をした日数が「0」の子供に、皆勤賞を各担任から手渡してもらいました。4か月もの長い期間、自分の体調を管理し、学校で充実した学習や生活ができたことは、とても価値のあることであり、積極的に評価をしてあげたいと考えています。

最後になりますが、ある調査によれば、低学年の児童には「家族からの評価」、中学年の児童には「友達からの評価」、そして、高学年の児童には「尊敬している人物・社会で活躍している人物等」からの評価が最も大きな影響を与えるといった結果も報告されています。

子供たちが本日持ち帰った通知表「あゆみ」を上手に活用し、一人一人の成長につながるきっかけとしていただければ幸いです。